

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19146

研究課題名（和文）タンザニア版Early Essential Newborn Careの実用化検証

研究課題名（英文）Implementation and Evaluation of Tanzania's Version of Early Essential Newborn Care

研究代表者

福富 理佳（FUKUTOMI, Rika）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：60826329

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：タンザニア版 Early Essential Newborn Care のセミナーを開催し、参加した助産師19名に対し、セミナー前後の知識テストと技術到達度の観察を行った。知識テストにおいて、参加者全体の点数平均は、実施前52%から実施後92%へと上昇し、セミナー実施後の技術到達度の平均は、89%に達した。5ヶ月後、セミナー参加者を中心とするOJTチームメンバー2名へインタビューを実施した。研究期間終了後となるが、今後結果を分析することにより、セミナーの教育効果を明らかにすること、OJT による教育活動に対する意欲、認識、ニーズを明らかにすることでタンザニア版EENCの実用化を評価する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、タンザニアの組織文化的、医療背景に根ざした新生児ケアプログラムの実用化検証である。より効果的な教育プログラムの実用によりさらなる新生児死亡率の低下に寄与すること、また、各国の背景に合ったプログラムの実用をめざすことは、他の導入国におけるより効果的な教育活動につながる知見を得ることができる。また、今後の本研究結果の公表を通して、Early Essential Newborn Care の評価と改訂へつながることも期待される。

研究成果の概要（英文）：The two-day seminar on Tanzania's version of Early Essential Newborn Care was held in September 2022. Knowledge tests were conducted and the practical skill attainment of 19 participating midwives were observed before and after the seminar. In the knowledge test, the average score of the participants increased from 52% before to 92% after the seminar, and the average skill attainment reached 89%. In addition, in February 2023, the interview was conducted with two members of the on-the-job training (OJT) team, who were seminar participants. Although the research fund period has ended, the analysis of the results will reveal the educational effectiveness of the seminar and assess the motivation, awareness, and needs regarding educational activities through OJT, in order to evaluate the practical implementation of Tanzania's version of Early Essential Newborn Care.

研究分野：看護学

キーワード：Newborn Care EENC タンザニア アフリカ 新生児看護 助産 看護実践教育

1. 研究開始当初の背景

2016年時点の新生児死亡数は290万人を数え、5歳未満の子どもにおけるその割合はおよそ46%に上り、新生児死亡の割合は今後も増大することが予測されている¹⁾。新生児死亡の世界的動向が明らかとなつてからその重要性の認識が進み、持続可能な開発目標(SDGs)では、2030年までの新生児死亡率の引き下げが目標の一つとして掲げられた。世界全体の新生児死亡の8割は南アジアおよびサブサハラアフリカの国々で起こっており、タンザニア連合共和国(以下、タンザニア)はこの地域に属する。これら開発途上国のほとんどにおいて、新生児死亡の3大要因である未熟児(早産・低出生体重)、新生児仮死、新生児感染症に対して適切なケアを講じることで不要な死を回避できるといわれている²⁾。

新生児死亡への対策として、2014年以降、世界保健機関西太平洋地域事務局(以下WHO WPRO)と国連児童基金は、新生児死亡率の高い主な西太平洋地域の8カ国(カンボジア、中国、ベトナム、フィリピン、ラオス、モンゴル、パプアニューギニア、ソロモン諸島)でEENCを展開している³⁾。EENCは、エビデンスに基づいて構成されたケアで、出生直後の新生児へのケアの質を向上し、新生児の3大死因を防ぐことを目標としている。WHO WPROは、EENCがプログラム通りに実施されれば、西太平洋地域において毎年5万人の新生児死亡を防ぐことが可能になると推定している。EENC導入以降、WHO WPROにより2年毎に各国のEENC実践報告がまとめられているが、その報告によると2017年には西太平洋地域全体で3,366の医療施設、30,251名の医療スタッフに対してEENCが展開されている³⁾。また、すでにSDGsの目標値である1,000対12以下の新生児死亡率の低下を達成した国々もあり、EENCの普及による効果が既に示されている。EENCは、基本的な出生直後の新生児ケア(出生直後の羊水の拭き取りと刺激、母子の早期皮膚接触、臍帯遅延結紮、産後の早期授乳支援などを手順化)(Module 2)、さらに早産児に対するカンガルーケア(Module 4)や合併症児に対するより複雑なケア(Module 5)を順に習得するプログラム展開で構成され、出生前の環境と物品の準備から手洗いのタイミングなども詳細に手順化している(図1)。特に、2日間のセミナー参加者が、施設での教育・普及の核となるチームを形成し、そのチームが主体となって定期的なスタッフへのトレーニング活動や実践評価、チームミーティングの開催などを行い、質の高いルーチンケアを確立した後に次のModuleへ移行することもEENCのプログラムの特徴である(Module 3)。しかし、Module 3で推奨されるチームの教育・普及活動の実施率はわずか19%であり、各施設でケアの教育・普及の核となるチーム活動が主体的に行われていないことを示唆している。これまでに、EENCのチーム形成とその活動の推進における課題解決の方略は明らかになっていない。その理由の一つは、先行研究が、主に、開発途上国におけるガイドライン等の実践状況についての一時点での調査で、実践のプロセスや課題要因の探索に関する知見の蓄積が十分でないためであることが挙げられる。

タンザニアにおいては、ダルエスサラームの国立看護大学と研究者の所属機関が協働し、2017年からEENCのプログラムが展開され、研究者は当初から普及を目指した研究に取り組んできた。これまでに、タンザニアの一施設でEENCの普及を目指した研究を実施し、1)出産に関わる看護職がチームを形成し、臨床現場でのEENCの教育と普及を行うための活動のプロセスの記述、2)EENCの適用における現場の社会環境的な要因の解明、3)EENC導入後の産科病棟における実践の評価、4)チーム活動に対するチームメンバーの認識の調査を行ってきた。研究結果から、組織文化として継続教育や実地トレーニングの習慣がないこと、チーム活動に不慣れな文化的背景(非効果的なチームビルディング)によるEENCの教育・普及活動の滞りが明らかになった。以上のように、タンザニアにおいても他国と同様にチーム活動が困難な状況であること、またその要因が明らかとなったことで、西太平洋地域各国におけるチーム活動に対する課題解決へも何らかの示唆を与えると考えられる。また、タンザニアのチームメンバーは、普段の業務に対する負担感、低報酬に対する不満、メンバー活動を強いられることへの不満、支援国への依存心といった要因によりチーム活動への意欲の低下がみられた。支援国による断続的なトレーニングの

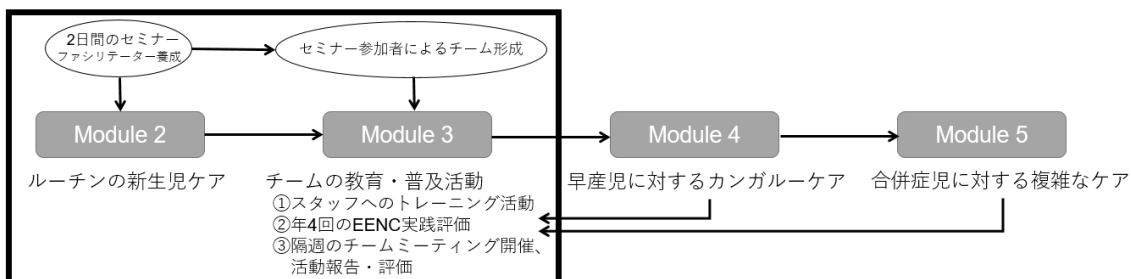


図1. EENCのプログラム展開：出産・新生児ケアに関わる医療者にファンリテーター養成のための2日間のセミナーを行い、参加者はルーチンの正常分娩(第一呼吸なく蘇生を要する場面も含む)における新生児ケアを習得する(Module 2)セミナー参加者はEENCの実践・普及を目指すファンリテーターとしてチームを形成し、自施設において活動を行う(Module 3)質の高いルーチンケアが確立したところで、早産児に対するカンガルーケアの普及に移行し(Module 4)、同様にチーム活動を行い(Module 3)、さらに、合併症児に対するより複雑なケアへと順に展開する(Module 5)四角の太線で囲った範囲が、本研究における修正の対象となる。

実施により、病棟の EENC の実践率は短期的（12 週間後）には上昇がみられたが、その後の長期的（1 年後）な実践の評価では実践率は低下し、ケアの定着には至っていない。よって、今後 EENC の普及と定着に向けた活動には、EENC のプログラムに含まれるチーム活動のあり方について検討する必要がある。しかし、これまでに国の文化的背景を考慮した EENC のプログラムの検討に焦点を当てた研究はない。

研究者と現地協力者は、これまでの研究結果を踏まえて以下のように従来のプログラムの変更を検討した（図 2）。

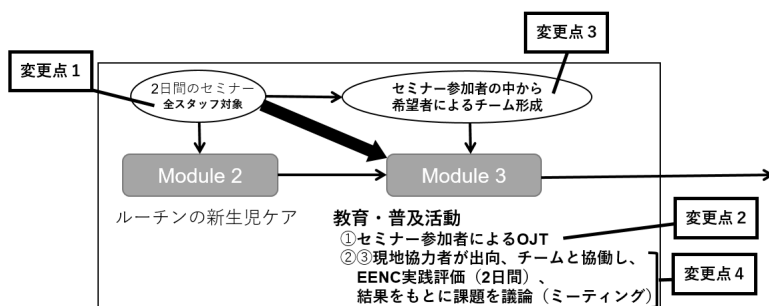


図 2. タンザニア版 EENC への変更点：図 1 からの変更箇所を太字で示す。

引用文献

- (1) World Health Organization. (2014b). Every Newborn: An action plan to end preventable death. Retrieved from <http://www.who.int>
- (2) Obara, H. & Sobel, H. (2014). Quality maternal and newborn care to ensure a healthy start for every newborn in the world health organization western pacific region. BJOG, 121 Suppl 4, 154-159. doi:10.1111/1471-0528.12943
- (3) World Health Organization Regional Office for the Western Pacific. (2018). Second biennial progress report (2016-2017): Action plan for healthy newborn infants in the Western Pacific Region (2014-2020). Retrieved from <http://www.wpro.who.int/en/>

2. 研究の目的

本研究の目的は、WHO が提唱する EENC をタンザニアの特性に合わせて修正したタンザニア版 EENC の実用化の可能性について検証することとする。

プログラムの変更点 1 に対し、全スタッフ対象 EENC セミナーの教育効果を明らかにする。変更点 2 に対し、EENC 実践率から、セミナー参加者による OJT の教育効果を明らかにする。変更点 3、4 に対し、タンザニア版 EENC のプログラムの展開方法の実現可能性を検証する。本研究は、タンザニアで EENC の発展を試みる唯一の調査であり、タンザニアにおけるより効果的な教育活動への示唆を得ることで、さらなる EENC の普及と新生児死亡率の低下に寄与することが期待される。また、文化的背景に合った EENC の教育プログラムの確立をめざすことは、他の導入国のより効果的な教育活動につながる知見を得ることができる。

3. 研究の方法

研究目的①～③について、各方法は以下とする。

- (1) 研究目的 ①：2 日間のセミナーに参加した看護職を対象に知識テストと技術到達度の観察を行い、全スタッフ対象 EENC セミナーの教育効果を評価する。
- (2) 研究目的 ②：産科病棟の全看護職を対象に EENC の実践率の観察を行い、実践の熟達からセミナー参加者による OJT の教育効果を評価する。
- (3) 研究目的 ③：チームメンバーを対象にインタビューを行い、活動に対する意欲、認識、ニーズについて明らかにするとともに、実践評価の実施とミーティングの実施の観察を行い、プログラムの展開方法の実現可能性を評価する。

4. 研究成果

現地研究倫理審査委員会（国立ムヒンビリ健康科学大学：Muhimbili University of Health and Allied Science、国立医学研究所：National Institute of Medical Research、タンザニア科学技術委員会：Tanzania Commission for Science and Technology）の承認を得て、研究を開始した。しかし研究期間全体を通し、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響を受けて渡航や研究計画の予定に沿った実施が困難な状況にあり、最終年度の 2022 年度の実施が主たる研究成果となる。

2022 年 9 月に 2 日間の EENC セミナーを開催した。研究協力者 3 名により現地開催、研究者の

み日本からオンラインで繋いで遠隔にて参加した。参加者 19 名（いずれも助産師）を対象にセミナー前後の知識テストと技術到達度の観察を行った。知識テストにおいて、参加者全体の点数平均は、実施前 52%から実施後 92%へ上昇した。セミナー実施後の技術到達度の平均は、89%に達した。2023 年 2 月には、セミナー参加者を中心とする OJT チームメンバー 2 名へのインタビューを実施した。

上記調査をもとに、今後は結果を分析することにより、セミナーの教育効果を明らかにすること、OJT による教育活動に対する意欲、認識、ニーズを明らかにすることで、タンザニア版 EENC の展開方法の評価と実用化の検証を予定する。研究期間終了後となるが、研究論文の公表を目指している。

本研究は海外を研究フィールドにおり、例に漏れずパンデミックの影響を大きく受けて研究実施が遅延した。今回の経験を通し、研究者自身の渡航を前提に計画するだけでなく、不測の事態も考慮した現地の研究協力者との関係基盤づくり、および遠隔での研究実施を可能とする方策を研究計画の段階で検討しておくことが今後の課題と考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Yumiko Igarashi, Rika Fukutomi, Mwilike Beatrice, Shigeko Horiuchi
2. 発表標題 Midwives' Perception of Early Skin-to-skin Contact after Repeat Caesarean Section in Tanzania
3. 学会等名 The 40th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------